

## 教育学系

教員数	教員等数 (人)	教授 22 (22)	助教授 15 (15)	講師 4 (3)	助手 1 (2)	技官〔準研〕 3 (3)	
	異動状況 (人)	退職・転出 3 (2)	昇任 — (3)	採用 2 (1)	学内 — (—)		
研究活動	研究発表 (件)	論文・著書発表数		学会発表数			
		国内	国外	国内	国外		
		173 (159)	3 (7)	56 (72)	8 (6)		
	受賞数(件)	2 (1)					
	研究費等		採択件数	採択率(%)	金額(千円)		
		科学研究費	22 (17)	61 (47)	44,400(36,980)		
		学内プロ	10 (8)	45 (40)	7,000(4,620)		
奨学寄附金件数・金額		件		千円	(件)	千円)	
受託研究件数・金額		1件		130千円	(件)	千円)	
	受託研究員	人 (人)					
施設・設備							

・ ( ) は前年度の数値を示す。

### 1 教育学系の活動

教育学系所属の教員は、人間学類及び教育研究科の配置枠の教員に加えて、日本語・日本文学文化類、教育機器センター、留学生センター、大学研究センター、教育開発国際協力研究センター、学校教育部、及び一般教育（教職科目）担当教員と多岐にわたっている。これらの多岐にわたる人材を生かし、筑波大学内での教育と研究のみならず、内外の教育学研究に貢献してきている。附属学校との連携も、学校教育部の教員等を通じて、その組織も整い始めている。教育学系と関係の深い教育開発国際協力研究センターは発足して2年目になり精力的に国際的な活動を開始している。

### 2 自己評価と課題

- 教員人事については、採用人事および昇任関連人事のいずれにおいても、原則として公募制を取り入れて行ってきており、研究活動等の活性化に資している。本年度はすでに講師1名を採用し、平成16年4月1日付で、講師の採用が決定している。教授枠の人事及び助手・技官の人事については、選考等手続きが進んでいる。
- 国際交流においては、海外の6大学と交流協定を結び、韓国の延世大学とは、締結（追加）を行った。交流の一環として教育学系から講師を派遣した。地道な成果をあげつつあるが、さらに国際交流の成果をあげていくためには、財政面での工面をどのようにしたらよいか大きな課題である。
- 教育学系は、教育機器センター、留学生センター、大学研究センター、教育開発国際協力研究センター、及び学校教育部の教員も所属しており、関係学類・研究科等における教育及び研究において連携しているが、さらに緊密な連携が望まれる。
- 筑波大学教育学会は、教育学系内の組織ではなくなったが、発足して3年目になり教育学系と連携して、さらに附属学校の教員とも連携して、教育学系の研究の伸展及び附属学校の諸問題に対処していくことが必要である。
- 外部資金の獲得については、科学研究費をはじめとして、その獲得に鋭意努力している。平成16年度の新規の申請率は43.9%でやや低いが、継続とあわせると85.4%になる。平成15年度の採択率については、66.7%で、全学でもっとも高くなっている。法人化後は、外部資金獲得に向けていっそうの努力が必要である。